

科目名	小児看護学実習	教員名 野田智子 埴 恵子	学科等	看護	必修	履修年次	3
(科目番号)	(時間割参照)		曜日・時限等	時間割表参照		単位数	2
			授業形態	実験・実習	オフィスアワー	実習開始時に提示	
授業概要	保育園実習・小児病棟実習から構成されている。小児看護職の役割について体験的に学び、基礎的实践能力を養う。「保育園実習」では、健康な子どもの成長発達や子ども生活の特徴を学習する。「小児病棟実習」では、病気と共に生活する子どもの、成長発達や健康状態に適した看護を実践する。						
目的・目標	目的:小児看護学概論および小児看護学援助論における学習をもとに、小児の健康上の諸問題を総合的に理解し、個々の成長・発達段階に応じた看護を実践する基礎的能力を養う。 目標:①成長・発達の側面から小児を理解し、健康状態に適した生活援助ができる。 ②小児および家族に必要な性の高い看護問題を認識し、解決に向けての援助が考えられる。						
準備学習							
授業計画	授業項目	到達目標・学習内容					
	1. 保育園実習 到達目標：健康な子どもの成長・発達、また集団の中における子どもの生活の理解とそれを支援する援助が理解できる。 学習内容：保育士の子どもに対する関わりの意図を考えながら、保育活動に参加しつつ、子どもの様子を観察する。また、学内でのグループカンファレンスを通し、発達段階に添って、子どもの成長発達および生活を整理し、実習内容を統合する。 4. 小児病棟実習（全学生） 到達目標：病気とともに生活する子どもの成長・発達、（健康状態）→疾病の状態に適した看護を実践できる。また、親子関係および家族関係を理解し、子どもの健康障害が家族に及ぼす影響（サポート体制を含む）について理解できる。 学習内容：小児期にある児を一人受け持ち、担当教員および臨床指導者の指導のもとに実習を行う。受け持ち児の成長・発達、（健康状態）→疾病を理解し、日々、その児に適した方法考えながら担当看護師とともに、援助を実施する。カンファレンスでは、毎日の実習を振り返り看護実践につなげるとともに児の全体像の把握に努める。						
成績評価の方法・基準	小児看護学実習要項の評価表に基づき評価する。						
教科書	既購入書籍						
参考図書	随時紹介する						
教員からのメッセージ	病気や障がいを持った子どもたちも、健康な子どもたちと同様に、日々成長発達していることを忘れないでください。そして、常に子どもや家族から学ぶ姿勢を大切にしてください。座学の学びが実践につなげられるように、個々の学生と向き合います。小児病棟や教育施設で勤務した看護師がこの授業を担当します。						